

拝啓、暑い季節となりました。夕暮れ時の蜩に耳を傾け、少しでも涼しさを求めております。毎度皆様へは、格別のご高配を賜り心から御礼申し上げます。

本年は新型コロナウイルスの影響で世界的な被害となり、とても心が苦しく、なんとか早期の解決を願うばかりでございます。

さて、令和二年八月十五日、この日に弊社は百年の時を迎えることとなります。

百年前、大正九年に日本酒を造る想いで集まった有志達は、現在より遥かに不便な環境で醸造を開始したことと思います。

その有志達の想いで、この地に酒蔵ができたことは、言うまでもない奇跡なのかもしれません。

当蔵は、倒産や戦争、数々の困難を乗り越え、現在に至る訳ではありませんが、我々は、そのたった一部の年数を勤めたにすぎません。

百年の中僅かな期間に過ぎないものの、この二十年間、平成と令和にかけて劇的に進化した時代となりました。

設備はもちろん、百年の中で人も知識も同じく発展してまいりました。この発展は、現在まで弊社とお付き合いくださいました皆様のおかげと存じ心から御礼申し上げます。

当蔵には、いつから始めたのか記録がなく正確には分からないながらも、昔から変わらぬことがあります。それは、もち米四段仕込みです。

百年の歴史の中で、消えゆくはずの古い技術が、当蔵の酒造技術へ進化を与え、そして、唯一の業になったと感じました。

しかし、当然ながら唯一の業への道のりは決して平坦ではなく、その業と伝統を形で証明するのは容易ではありませんでした。

この百周年を機に、唯一を証明したいと決意し、全商品もち米四段仕込みの蔵で、更に進化を成し遂げる、業と伝統を形にする、という強く熱い思いで創業百周年記念のお酒を醸造いたしました。無理だと自ら決めつけていたもち米四段仕込みでの全国新酒鑑評会への出品も創業百周年の記念酒でさせていただきました。

結果は入賞をいただくことが出来ました。弊社のもち米四段仕込みが技術的にも認められたことは、素直に嬉しく、今まで決めつけていた自分たちへの反省と、新たな挑戦への楽しみが増すこととなりました。

この百年を振り返り、私ができるのは二十年間だけです。この二十年は当社の歴史上一番の挑戦と発展。そして勉強に努力。我慢に喜びを創れた何事にも耐える花泉酒造になれたように感じております。震災や水害。そして新型コロナウイルスと想定外のことが次々と起こる世の中で弊社も今までの普通が普通に出来ない状況ではあります。

しかし、何とかこれも乗り越えて明るい未来が訪れるよう努力して参ります。

未来はまだ分からないことが多いかもしれませんが、ひたすら努力してなんとか困難を乗り越えて参ります。

多くの方が笑顔になれるお酒を。多くの方を癒せるお酒を。時に泣いても良いと思います。そんなお酒を醸していく所存でございます。

百年間、弊社とお付き合い頂き、ご愛飲くださいます。誠にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

どうか、皆様くれぐれもご自愛くださいませ。今後ともよろしくお願い申し上げます。

コオロギの声が夜風と共に涼しきを感じさせ、ますます旨い酒を飲みたくなります。そろそろ仕込みの準備が始まる季節を感じております。

まずは右、略儀ながら書中をもちまして御礼申し上げます。

敬具

令和二年八月吉日

口万醸造元 花泉酒造合名会社

代表社員 星 誠